

平成 29 年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 (深草 幼稚園)

<p>1 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを見つけ、夢中になって遊び込むための環境構成や援助の見直し、再構成や実践 ・教師との信頼関係を基に安心・安定を基盤とし、それぞれの発達に応じて、身近な人に主体的にかかわる楽しさや喜びを味わうための環境構成や援助 ・子どもが様々に心を動かし、試したり挑戦したりするための保育環境の工夫 ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方とのかかわりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践 ・協同する遊びや生活の意図的な投げかけ ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児がかかわる機会を設定 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊ぶ姿、自己発揮しようとする姿の変容・週案の反省、評価・エピソードの検討 ・アンケート項目①「子どもは幼稚園を好きだと感じていますか」「友達とかかわることを楽しんでいますか」②「幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいますか」「体を動かすことを楽しいと感じていますか」「自然とのかかわりや栽培活動を楽しんでいますか」③「持ち物の始末や着替えを自分でしようとしていますか」 	
<p>各種指標結果 (1回目)</p> <p>① 教師との信頼関係をもとに子どもたちの気持ちが安定し、自分の興味ある遊びや取組を通して自己肯定感をもてるようになってきた。(85%)</p> <p>② 幼稚園兄弟や地域の方々とのかかわりをもつことで、園外保育、栽培活動などの体験をより楽しむことが出来た。(75%)</p> <p>③ 持ち物の始末や着替えに関しては、年長児は保護者の期待も大きく評価が厳しかった。家庭と協力しながら身辺自立を進めていきたい。(60%)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>昨年度の「幼児が地域に親しみ愛着を持つことを目指して」という研究主題を新採教員と共に研修できるようにわかりやすくした。『身近な人に親しみをもち、心をつなげるための教師の援助や環境構成を考える』としたことで、人とのかかわりの中で信頼関係が基盤となり、子どもの発達に最も必要であること、人との出会いをつくる教師の援助や環境構成について丁寧に見直しているところである。子どもの変容にもよい姿が見られ、保護者アンケートの結果も良好である。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>子どもが様々に心を動かし、試したり挑戦したりするための保育環境の工夫は、教職員が一丸となって取り組むことはできているが、普段の保育の中にうまく浸透させることが難しい姿も見られた。計画的に見通すことに課題が見られた。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちも親しみをもって声をかけてくる。学校運営協議会の方も子どもたちの成長の姿を見ることが出来てうれしいと思うと話してくださる。 ・これからも保育に参画できるようにしていきたい。 ・世代が変わっていくので次へどうまくつないでいきたい。
評価者評価	<p>評価日 8月24日</p> <p>評価者 学校運営協議会 (なかよし会)</p>
<p>各種指標結果 (2回目)</p> <p>・幼児の遊ぶ姿、自己発揮しようとする姿の変容・週案の反省、評価・エピソードの検討</p> <p>① 「幼稚園で遊ぶことが好きである」(大変そう思う90%)</p> <p>② 「一年間を通じて幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでいた」(大変そう思う50%)</p> <p>③ 「子どもは持ち物準備や着替えなど自分でやりきろうとしている」(そう思う70%)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>① 教師との信頼関係を基盤に友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じ、様々な環境の中で試しや工夫をしながら遊びを進めていく姿が見られた。人とのかかわりにおいては、葛藤する場面もみられたが、丁寧な教師の援助により、気持ちに折り合いがつけられるようになりつつある。</p> <p>② 身近な人に親しみがもてるように、幼稚園兄弟の取組を大切に園外保育や園内の生活を考えてきたが、家庭での子どもの様子から幼稚園兄弟とかかわることを楽しんでい</p>

学校 関係 者 評 価	<p>たという評価を得ることが難しい回答もあった。しかし、関わりの深まりや育ちを感じることができるので、保護者への発信について課題があると捉えている。</p> <p>③ 前期も同じ傾向が見られた。進級進学を控え、願いが高くなると考えられる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>感動体験につながる園外保育や栽培活動・幼稚園兄弟・地域の方とのかかわりを、今後も大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践ができるようにしていく。幼稚園での取組を保護者はもちろん、外部へと発信して幼児教育への理解を深めてもらえるようにする。</p>
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園兄弟の取組は、様々な人に出会うという貴重な体験になっている。一年間、園外保育や園内の生活で一緒に過ごしながら、互いの良さや自分とはちがう面に気づく機会にもなっている。また、その中で親しみや思いやりの気持ちが育ってきているのではないか。いろいろな行事に参加したが、どれも概ね良い取組だった。</p>
評価日	3月9日
評価者	学校運営協議会（なかよし会）

<p>2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの思いや考えを出し合い、活動を進めていくための小グループでの協同的な活動を計画的に位置づける。 ・遊びを通して、試したり、挑戦したり、やり遂げたりする力や自信につながるための環境構成や援助 ・「親子で絵本！」のノートを活用し、様々な絵本や物語との出会いを基に豊かな創造性や言語に対する感覚などの育成 ・「学びに向かう力」を明記したアプローチカリキュラムとしての週案の作成 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流のエピソード検討 <p>アンケート項目 ①交流保育の回数や合同研修の回数 ②「親子で絵本！」の活用度</p>

<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携交流のエピソードは、今年度まだ検討できていないが、ずっと以前から小学校との連携に力を注いできた幼稚園だけに、小学校と幼稚園のかかわりがスムーズであることを感じる。小学校側も幼稚園の育ちを知ろうと前向きである。 <p>① 小学校との連携（大変思う 78 %）</p> <p>② 「親子で絵本！」は定着してきて保護者の意識も変わってきた。2学期から親子で絵本を通して触れ合えるように月に1回「親子で絵本デー」を設けた。今後の活用の様子を見ていきたい。絵本を見るのを楽しんでいる（大変思う 60 %）</p>
--

自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立てて見通しをもって取り組むことができている。 ・2年生が幼稚園を訪問して交流できることは、子どもたちにとっては嬉しいことである。アンケートからも幼小連携交流は心強いという意見が挙がっていた。 ・アプローチカリキュラムとしての週案の作成はまだ課題がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小接続は事前の話し合いはするが、事後の話し合いは時間を取りってすることが少ないので、小学校と互いに意識できるようにしていきたい。学校運営協議会の方にもご協力してもらうことも考えていく。 ・週案の内容を充実をしていく。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園でかかわった子どもたちが、小学校で頑張っているのを見ると嬉しく、応援したくなる。これからもつながりをつくりていきたい。地域の子どもが地域を好きだと思ってほしい。</p>
	<p>評価日 8月24日</p> <p>評価者 学校運営協議会（なかよし会）</p>

各種指標結果（2回目） <p>① 小学校や中学校との連携を大切にし、子どもたちの人とかかわろうとする力や憧れや期待の気持ちにつながっていった。（大変そう思う 55%）</p> <p>② 絵本を見ることや絵本貸し出しの日を楽しみにしている。（大変そう思う 45パーセント） (そう思う 50%)</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>近隣の小学校との連携は、互いに意識し合っている。子どもたちにとっても小学校を知る機会となり、小学生への憧れや期待感も高まることができる。しかし、小学校との連携は、5歳児が主にしている取組なので、4歳児の保護者からはわかりづらい面もあったと思われる。対象学年でなくても、小学校との連携のつながりを実感できるように発信していくことが必要である。中学校との連携は、生き方探究の学習の協力のみなので、他に連携できる内容を探っていきたい。</p> <p>絵本については、「親子で絵本ノート」を100冊を超えた。今後も心豊かになるお話を検討していきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>学校運営協議会の方にもご協力いただきながら、より小学校と接続していくように事後の話し合いなどもしていきたい。より深まるように、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿などを基に、交流だけでなく、個々の育ちについても理解を深めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>小学校の学校運営協議会でも、一年生との活動（昔遊び等）をしているので、可能であれば、幼稚園で参加してもらうこともできるかもしれないというご意見をいただく。幼稚園で関わった子どもたちが「小学校へ行ってもなかよし会の人と遊べる？」と尋ねていることなどを喜んで受け止めてくださった。来年度に向けても前向きな意見をいただいた。</p>
	評価日 3月9日 評価者 学校運営協議会（なかよし会）

<p>3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む</p> <p style="text-align: right;">心と体・生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発達を捉えながら、体を動かし、身体諸機能の調和のとれた発達を促すための保育環境の構成や援助 一人一人の課題を明確にし、家庭と連携しながら基本的生活習慣の確立に向けた援助 自分のことを自分でできる実感から自立心、自信につながる援助 <p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>アンケート項目</p> <p>① 年齢にふさわしい生活習慣が身に付きましたか</p> <p>② 体を動かして遊ぶことが好きですか</p> <p>・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価</p>	
各種指標結果（1回目）	<p>① 生活習慣が身に付いてきている（そう思う 80%）</p> <p>② 体を動かして遊ぶことを楽しんでいる（大変そう思う 85%）</p> <p>・週案の中に運動遊びの取り入れがほぼできている。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の定着に関しては特に年長児の保護者が自分の子どもに対する評価が厳しい。また、家庭により課題を抱えているところもあるので温かく援助していきたい。 ・5歳児はプール遊びを始めた頃から自信が付き始め、よく体を動かして遊ぶようになった。 ・4歳児はさまざまな身体機能を動かせる遊びを週案で意図的に考え、工夫している。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き朝ごはんの定着と共に身辺自立は家庭との連携が必要なので、家庭の事情も考えながら指導していきたい。 ・運動を伴う遊びを引き続き週案に明確化していく。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 ・運動会の様子や園外保育に出かける様子を見て、春からの心身の成長を感じた。園外保育などは大変だが、子どもの体験には必要なことなので協力できることはしていきたい。 ・さまざまな体験活動の場を作っていくみたい（柿取り、昔遊びなど）
	評価日 8月24日・10月23日 評価者 学校運営協議会

各種指標結果（2回目）

幼児の姿の変容について（週案・事例検討・評価の記述などから）

- ① 幼稚園の持ち物準備や着替え等自分のことを自分で最後までやりきろうとしている。
- ② 1年間を通じて体を動かして遊ぶことを楽しんでいた。

自己 評 価	分析（成果と課題） ① 4歳児、5歳児共に進級、進学前の願いが高くなる傾向が見られる。課題を感じていることを受け止め、家庭と連携を図りながら、力がつくように取り組みたい。子どもに任せきるのではなく、共にする大きさも知らせていくみたい。（そう思う80%） ② 園庭の広さを活用し、マラソンや毎日の体操など積極的に行うことができた。心も体も動かしてイキイキと遊べるように今後も取り組みたい。（大変そう思う78%）
	分析を踏まえた取組の改善 基本的な生活習慣を形成することは、家庭との連携が大切である。幼児の発達年齢などを踏まえ、家庭にも知らせながら、子どもたちに自信や自立が育めるような関わり方について共に考えていくたい。 自ら体を動かす意欲を育てるために、教師自身がモデルとなり、遊び込む指導を意識していくことができた。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 幼稚園の持ち物準備や着替え等自分のことを自分で最後までやりきろうとするることは、毎年課題に出てくることである。今後も自分で考えて行動できるように頑張ってほしい。
	評価日 3月9日 評価者 学校運営協議会（なかよし会）

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

- ・幼稚園での安心感につながるよう信頼関係（子どもと教師、保護者と教師）を構築し、興味のある遊びや新たな関心を基に自己発揮できる遊びや生活の展開
- ・身近ないろいろな人とかかわる機会を設定するとともに、人とかかわる楽しさを十分味わい、大切にされているうれしさや安心感を実感できる保育の展開
- ・自己発揮するとともに他者との折り合いの場面ができるよう協同する遊びや生活を重視した保育の展開

（取組結果を検証する）各種指標

アンケート項目 ①幼稚園は喜んで来ていますか

- ① 安心して、幼稚園生活を送っていますか・自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりしていますか
- ③ 地域とのつながりを大事にしているか

各種指標結果（1回目）

- ① 幼稚園は好きだと感じているか（85%）
- ② 友達とかかわることを楽しんでいるか（年少70%）
友達に思いを伝えたり相手の話を聞いたりしているか（年長50%）
- ③ 地域とのつながりを大事にしているか（90%）

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・教師との信頼関係が出来、喜んで幼稚園に来ている。 ・友達同士のつながり（年長）や気の合う友達（年少）が出来つつあり、一緒に遊ぶ楽しさや喜びを感じてはいるが、自分の思いを主張することが多く、他者の思いに気づき、気持ちに折り合いをつけることに時間を要する面が課題として残る。個に合った指導が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながりは成長の上で大事にしたい部分であるので、引き続き温かい人間関係づくりを目指していきたい。 ・年齢に応じて協同する楽しさが味わえる機会や環境づくり、援助を意識していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での遊びを通しての学びが小学校の学習につながることを改めて感じることが出来た。子どもたちが地域で安心して過ごせるようにかかわっていきたい。
評価日	8月24日
評価者	学校運営協議会（なかよし会）
各種指標結果（2回目） <p>① 幼稚園で遊ぶことが好きである。 ② 友達に思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりし、一緒に遊ぶことを楽しんでいる。 ③ 地域とのつながりを大事にし、地域の方の保育参加により、子どもたちが心豊かに育っている。</p>	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ① 前期に引き続き、子どもたちが幼稚園生活を楽しんでいることが伺える（大変そう思う90%）行事なども多くたくさんの経験は出来たが、主体的な遊びをより充実できるような保育の展開を考えていきたい。 ② アンケート内容が移行したことから、友達とかかわる姿の中で自己主張が強い面を感じ、折り合う気持ちには課題があると捉えられたと考える。（大変そう思う50%）個人差はあるもののその子なりの思いを伝えようとする姿に成長は見られる。個々に丁寧に伝えていきたい。 ③ なかよし会の方の保育参画が子どもの育ちにつながっていることを感じられている。なかよし会の組織、取組について引き続き発信していきたい。（大変思う85%）
	分析を踏まえた取組の改善 <p>一人一人の思いに更に寄り添い、集団の中で子どもが自信をもって自分の力を発揮できるような援助、また、他者の気持ちに気づき、自分を見つめなおすことができるような援助についても心がけていきたい。 なかよし会の方との連携も新たな取組を考え、共に子どものために協力していただけるよう歩み寄りたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>子どもとの交流はあり、保護者の方にも理解をいただいているが、今後保護者の方にもなかよし会の取組を実際に感じてもらう場もつくっていってはどうかと考える。</p>
評価日	3月9日
評価者	学校運営協議会（なかよし会）

園独自の項目 <ul style="list-style-type: none"> ・他校種との連携 ・預かり保育の充実 ・地域との連携 ・子育て支援の推進 ・情報発信の充実（ホームページ更新）
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「他校種とのつながりを大切にしていますか」 ・預かり保育の参加人数・アンケート項目「預かり保育（ふかふかランド）は喜んでいますか」 ・未就園児、園庭開放の参加人数 ・ホームページのアクセス数と保護者からの反応

各種指標結果（1回目）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「他校種とのつながりを大切にしている」（大変そう思う 80%） ・「預かり保育は喜んでいる」（大変そう思う年長 85%， 年少 55%） ・未就園児 3歳児はにぎやかだが、2歳児以下の子どもたちが減っている。 ・ホームページのアクセス数は決して多くはない。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校種とのつながりは小中学校の理解のおかげでほぼ理解を得ている。今後も連携を深めていきたい。 ・預かり保育は年齢によって喜ぶ子どもが違う。内容を考えて参加人数を増やせるように努力していく。 ・2歳児以下の未就園児は他の幼稚園、保育園の経営方針の影響もあるかもしれない。 ・ホームページのアクセス数は、内容を検討し、教育方針を理解してもらえるように努力する必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校種とのつながりや預かり保育の中で異年齢児とかかわる意義など具体的に伝え、内容の充実に努めていきたい。 ・子育ての支援という本来の趣旨を忘れず、公立幼稚園の良さをアピールし、つながるよう今後も努力する。 ・今後も幼稚園教育の理解が図れるように発信を心がける。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の内容を充実できるように今後も協力していきたい。 ・子育ての支援が入園につながるようにポスターやチラシの配布は協力するので声をかけてほしい。 ・他の幼稚園や保育園の経営も気にはなるだろうが、公立幼稚園で大事にしていることは自信をもてばよい。深草の良さを生かしてほしい。
<p>評価日 8月24日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>	
各種指標結果（2回目）	
<p>① 小学校、中学校との連携を大切にし、子どもたちの人とかかわろうとする力や憧れや期待の気持ちにつながっていった。</p> <p>② ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児、園庭開放の参加人数 ・ホームページのアクセス数と保護者からの反応。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>① 4歳児では、小学校との連携があまり直接的ではないが、中学生とのチャレンジ体験などから評価を得ている。5歳児でなくても、連携については意識し、子どもの育ちを伝えたい。（大変そう思う 60%）</p> <p>② 今年度は取組の内容を担当教員と話し合いを深め、初めての取組も行ってきた。定着するまでにもう少し時間を要するかもしれない。（大変そう思う 67%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の取組も新しいことを初めている。発信をもう少し工夫していきたい。 ・ホームページ更新を今後も努力していきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>預かり保育に参加することで、降園後も安全に友達と遊ぶことができる場を保障することが出来ている。教育課程内の保育との兼ね合いや個に応じた対応を更に考えていく。</p> <p>未就園児の取組については、未就園児と保護者のニーズを探り、他の就学前施設との連携も出来ればと考える。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>仕事をもつ保護者も増えてきているが、公立幼稚園が大切にしている親子のかかわりについても大事にしてほしい。</p>
評価日 3月9日	評価者 学校運営協議会（なかよし会）